

「折れたオクラ」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋



さんの根が伸びている。このまま土に植えれば、今からでもサツマイモが収穫できるにちがいない。



同じようなことが、オクラにも起きた。子どもたちのオクラの鉢は、3年生のベランダに並んでいるが、強風や世話の仕方、それに観察時の移動などで、しばしば苗が折れてしまう。「育て主」の子どもにとっては一大事である。先日も、隣のクラスの男児が、「先生、オクラ折れちゃった。死んじゃう？」と泣きそうな声で訴えてきた。私は「この容器に水を入れて、しばらく刺しておきなさい。根が出るかも知れないよ」といい加減なことを言って、R1(乳酸菌飲料の小さなPETボトル)を渡した。木本(樹木)ならともか

く、草本(草花)のオクラの根が再生するとは思えなかった。しかし一週間ほどして、その男児が嬉しそうに、私に経過報告に来た。



「先生、見て見て！根がこんなに出たよ。先生の言った通りだった。死んでなかったよ！」これは、誠に喜ばしい図であった・・・と同時に内省もあった。私は自分が相当にいい加減な指示を出して、しかも指示をした事実すら忘れていたのだ。私は「実は先生も、まさか根が出るとは思っていなかったんだよ。でもあなたが実験してくれて、オクラの生命力がわかってよかった。」と案外正直なことを言った。



根は確実に数本出ている。つまりオクラはある程度育っていれば、挿し木(正確には「挿し草」)が可能だということである。この男児は、これを大切に持ち帰り、翌日に植木鉢に植えた時、もう一度報告に来てくれた。めでたし、めでたし・・・だった。